

六月

● 六月。

0208

● 雨の降りしきる日。

0211

ここは、山梨県甲州市勝沼。

● 全国有数の果樹王国が一年で一番忙しいのは梅雨時だと言われています。

0221

● 果樹園を営む大澤さんも、出荷を目前にした桃畑で奮闘中。

0233

(NO)

● 早朝から日が暮れるまで、雨の中の作業が続きます。

0320

● そして、一週間後。

0328

● 少ない日照時間の中、シルバーで集められた光をたっぷり浴びて桃が赤く色づきました。

0339

● なお、いよいよ収穫の時です。

0356

● 今年の出来はいかがでしたしょうか？

0412

(NO)

● え？ そのまま食べちゃうんですか？皮は・・・？

0422

(NO)

● 一緒に働く妻の採^とりか^いは、かぶり。

0451

0500	<p>(NO)</p> <p>● 固いまま食べるも良い、少し待って熟したのを食べるも良い。これから全国へと出荷される日本一の桃です。</p>
0513	<p>● 果樹畑のすぐ近くにある大澤家。</p>
0520	<p>● 長男の秀一<small>ひゅういち</small>さんの後ろには、代々続く大澤家の畑を大きくしてきた父の昇さんが今なお現役で働いています。</p>
0534	<p>● そして昇さんを支え続けてきた母の浩子さん。</p>
0541	<p>● 大澤家に嫁いできた操さんを含め、家族四人で、果樹畑を守ってきました。</p>
0550	<p>● でも秀一さん、もともとは農業を継ぐ気持ちはなかったそうです。</p>
0724	<p>(NO)</p> <p>● 平成不況のあおりを受けて金融マンとしての限界を感じた秀一さん。農家へ転向したのは三十一歳の時でした。農家の長男に生まれながら子どもの頃から父を手伝うことがなかったこともあり最初は慣れない仕事に失敗の連続だったと言います。</p>
0759	<p>(NO)</p> <p>● 父の昇さんも、生半可な気持ちでは到底、つとまらないと感じていました。</p> <p>(NO)</p> <p>(*音楽ベース)</p>